

公立大学法人和歌山県立医科大学

平成25事業年度の業務実績に関する評価結果

和歌山県公立大学法人評価委員会

公立大学法人和歌山県立医科大学の平成25事業年度に関する業務実績の評価について

和歌山県公立大学法人評価委員会（以下「評価委員会」という。）は、地方独立行政法人法第28条の規定により、公立大学法人和歌山県立医科大学（以下「法人」という。）の平成25年度業務実績に関する年度評価を実施しました。

年度評価は、中期計画に基づき法人が作成した年度計画について、評価委員会が当該年度の実施状況の調査及び分析を行い業務実績全体について総合的に評定を行うものです。

今回の年度評価は、第二期中期目標期間の2年目の評価で、法人から提出された業務実績報告書及び法人に対するヒアリング等により、年度計画の実績及び法人の自己評価の妥当性を総合的に評価しました。

評価委員会としては、今回の年度評価の結果が今後の法人及び大学運営に積極的に活用され、効率化、活性化等が図られ、教育研究並びに診療活動の一層の充実と法人の業務運営状況に対する県民のより一層の理解が深まることを期待します。

平成26年8月

和歌山県公立大学法人評価委員会

目 次

第1 全体評価

1 総 評	1
2 特色ある取組等	2

第2 項目別評価

1 教育研究等の質の向上	
(1) 教 育	3
(2) 研 究	4
(3) 附属病院	5
(4) 地域貢献	6
(5) 国際交流	6
2 業務運営の改善及び効率化	
(1) 法令及び倫理等の遵守並びに内部統制 システムの構築等運営体制の改善	7
(2) 人材育成・人事の適正化等	7
(3) 事務等の効率化・合理化	8
3 財務内容の改善	
(1) 自己収入の増加	8
(2) 経費の抑制	9
(3) 資産の運用管理の改善	9
4 自己点検・評価及び情報提供	
(1) 評価の充実	9
(2) 情報公開等の推進	9
5 その他業務運営	
(1) 施設及び設備の整備・活用等	10
(2) 安全管理	10
(3) 基本的人権の尊重	10

第1 全体評価

1 総 評

- 「公立大学法人和歌山県立医科大学は、医学及び保健看護学に関する学術の中心として、基礎的、総合的な知識と高度で専門的な学術を教授研究し、豊かな人間性と高邁な倫理観に富む資質の高い人材の育成を図り、地域医療の充実などの県民の期待に応えることによって、地域の発展に貢献し、人類の健康福祉の向上に寄与する。」という第二期中期目標のもと、この1年間、公立大学法人として求められている「地域に開かれた大学」及び「地域社会への貢献」という使命を果たすべく、質の高い大学教育と地域医療を実現するために、平成25年度年度計画に教職員が一丸となって取り組んだと認められる。
- 平成25年度計画140項目の業務実績を確認したところ、15項目について「年度計画を上回って実施している。」と認められ、122項目が「年度計画を十分に実施している。」と認められるが、3項目については、努力は認められるものの、「年度計画を十分には実施していない。」と認められた。これらを総合的に勘案すると、中期目標・中期計画の達成に向け、全体的には概ね順調に進んでいると評価する。
- 特に、以下の取組について評価する。
 - ・ 多様な人材の獲得のため、オープンキャンパス参加者や高校訪問回数を増加させた
 - ・ 平成25年4月から大学院保健看護学研究科博士後期課程を開設した
 - ・ 医学部・大学院医学研究科博士課程履修プログラムを開始し、大学院準備課程に34名の医学部生が登録した
 - ・ 電子ジャーナルの保有数を増やし、図書館利用の利便性を向上させた
 - ・ 「和歌山県医学偉人シンポジウム」を開催し、和歌山県医学史に名を残す3偉人の功績を学内外に広めた<医学部図書館>
 - ・ 担任教員と学生の懇談会の実施回数を増加させ、担任制の充実が図られた<医学部>
 - ・ 保健看護学部において、学生に対するカウンセリングを一年を通して実施し、開設時間を1時間増やした
 - ・ がんペプチドワクチン治療学講座（寄附講座）を開設した
 - ・ 文部科学省の「特色ある研究拠点の整備の推進事業」の対象として共同利用・共同研究拠点の認定を受けた
 - ・ 認知症に関する連絡協議会、研修会等の開催に加え、新たに市民公開講座を開催した
 - ・ BLS（Basic Life Support：一次救命処置）講習会の回数、参加者数が増加した
　　<附属病院本院>
 - ・ 紀北分院の救急患者の受入体制を整備し、「断らない医療」を実践するため、病院群輪番制当直体制において100%の収容率を達成させた
 - ・ 保健看護学部生が、地域医療を支える県内病院で特別実習を実施した
 - ・ 医学部の地域医療枠・県民医療枠の卒業生全員が県内に定着した
 - ・ 県内小・中学生及び高校生を対象にした出前授業の実施数・受講者数が増加した
 - ・ 平成25年7月に住友電気工業株式会社と「包括的連携協定」を締結した

- ・ 企業との共同研究・受託研究の契約件数と契約金額が増加した
- 一方、医師国家試験の合格率の低下等については、「年度計画を十分には実施していない」との結果となった。
- 地域医療支援センターの移転充実や、地域医療機関医師適正配置検討委員会の設置は「地域医療への貢献」という目的から見ても大きな一歩であり、へき地医療の均てん化を含め、今後の運用に期待する。

2 特色ある取組等

【教育】

- 医学部在学中に大学院での講義の受講や研究が可能となる「医学部・大学院医学研究科博士課程履修プログラム」を開始し、大学院準備課程に34名の医学部生が登録した。
- 平成25年4月から大学院保健看護学研究科博士後期課程を開設し、地域医療に貢献できる教育者及び研究者を育成できるようになった。
- 和歌山県ゆかりの3偉人の功績を学内外に広めるため、3偉人の業績紹介及び乳がん撲滅をテーマとした特別対談を開催した。＜医学部図書館＞
- 学生が担任に相談しやすい環境を整えるため、担任と学生の懇談会の実施回数を増加させ、担任制の充実を図った。＜医学部＞

	H24	H25
懇談会開催回数	0回	26回

【研究】

- 「がんペプチドワクチン療法」の研究を進め、民間団体からの寄附により「がんペプチドワクチン治療学講座（寄附講座）」を開設し、膵臓がんと食道がんに対する医師主導臨床試験を開始した。
- 文部科学省の「特色ある研究拠点の整備の推進事業」の対象として共同利用・共同研究拠点の認定を受けたことにより、障害者スポーツ医科学及び予防医学、リハビリテーション医学等関連領域の研究者の連携、共同研究を推進する体制を整えることができた。

【附属病院】

- 「附属病院東棟」の竣工により、高度で先進的ながん診療を中心とした診療設備の充実とともに、県内医療機関に従事する医療人を育成する機能を整えることができた。
- 平成26年4月から「看護キャリア開発センター」を設置し、看護師の研修・教育の充実、職員一人ひとりのキャリアパスの実現、保健看護学部とのより強力な連携を目指す体制づくりができた。＜附属病院看護部＞

【地域貢献】

- 平成25年7月に住友電気工業株式会社との間で、先進的な医療機器の創出等による両者の発展と国民福祉の向上を目的とした「包括的連携協定」を締結した。

【運営体制】

- 外部委員を含む「地域医療機関医師適正配置検討委員会」を設置し、地域医療機関への支援の必要性を審議する仕組みを導入した。

第2 項目別評価

評定の区分	中期目標・中期計画の達成に向けて、 S・・・特筆すべき進捗状況にある。 A・・・順調に進んでいる。 B・・・概ね順調に進んでいる。 C・・・やや遅れている。 D・・・重大な改善事項がある。
-------	---

1 教育研究等の質の向上

(1) 教育

【評定】B（概ね順調に進んでいる。）

年度計画の記載 44 事項中 43 事項が「年度計画を上回って実施している。」又は「年度計画を十分に実施している。」と認められるが、1 事項について「年度計画を十分には実施していない。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

〈医学部〉（大学院医学研究科を含む）

- 医学部と保健看護学部との合同講義としてケアマインド教育を行うとともに、老人福祉施設等の実習を通じて、医療人として必要なコミュニケーション能力を育成する教育を行っていることについて評価する。

老人福祉施設実習	保育園実習	障害者福祉施設実習
100 名	100 名	100 名

- 医学部教育と大学院教育を連携した履修コースとして、「医学部・大学院医学研究科博士課程履修プログラム」を開始し、大学院準備課程に 34 名の医学部生が登録したことについて評価する。

今後の医学部の学生に対する早期の研究マインド育成や、研究の活性化が期待される。

- 全体的には医師国家試験合格率が悪化傾向（H24：95.3%→H25：92.8%）であることについて、今年度の対応策が次年度以降にもたらす効果を注視するとともに、不合格者への聞き取り調査等による原因分析や、現役生を対象とした補講授業、心のケア等の実施が求められる。
- 地域医療枠・県民医療枠卒業生の医師国家試験合格率が高かった（地域医療枠：100%、県民医療枠：94.1%）ことについて評価する。
- 留年者数は前年度より少なくなっているが大きな問題であるため、その対応策について次年度の年度計画に組み込み、適切な対応を行うことが必要である。
- 「和歌山県医学偉人シンポジウム」を開催し、和歌山県医学史に名を残す 3 偉人の功績を

学内外に広めたことについて評価する。

- 担任教員と学生の懇談会の開催回数を増加させ、担任制の機能が充実したことについて評価する。

また、昨年に引き続き、学長ランチミーティングを開催し、学生との意見交換を行ったことについても評価する。

	H24	H25
懇談会開催回数	0回	26回

〈保健看護学部〉

- 保健看護学部3年次に、地域医療を支える県内の病院において、地域医療の現状や課題を理解し、専門職としてのあり方を学ぶための参加型実習を実施していることについて評価する。

〈大学院保健看護学研究科〉

- 平成25年4月から博士後期課程を開設し、保健看護学に関して高度な知識を有し、地域に貢献できる教育者や研究者を育成できるようになったことについて評価する。

(2) 研究

【評定】B（概ね順調に進んでいる。）

年度計画の記載11事項中10事項が「年度計画を上回って実施している。」又は「年度計画を十分に実施している。」と認められるが、1事項について「年度計画を十分には実施していない。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- 「がんペプチドワクチン療法」の研究を進め、民間団体からの寄附により「がんペプチドワクチン治療学講座（寄附講座）」を開設し、膵臓がんと食道がんに対する医師主導臨床試験を開始したことについて評価する。

- 文部科学省の「特色ある研究拠点の整備の推進事業」の対象として共同利用・共同研究拠点の認定を受けたことにより、障害者スポーツ医科学及び予防医学、リハビリテーション医学等関連領域の研究者の連携、共同研究を推進する体制を整えることができたことについて評価する。

- 教員1人当たりの英語原著論文が増加したことについて評価する。

今後は、全体的に質を高め、PubMed収録論文数を増加させることが期待される。

また、英語原著論文数とPubMed収録論文数に差異があるのは共著論文数を含んでいることによるものであるが、今後は、より実態を把握するため、①PubMed収録論文数のうち筆頭著者論文数、②PubMed収録論文数で共著論文を含む総論文数、③PubMed非収録の英語原著論文数の3つに分類して集計することが望まれる。

	H24	H25
教員1人当たりの英語原著論文数	0.94	1.07

- 学内の重点課題及び講座、研究室等の枠を超えた横断的な研究に対して支援するとともに、科学研究費の獲得に到らなかった若手研究者を対象に研究費を助成することにより、学内の研究を推進したことについて評価する。

横断的プロジェクト研究への重点配分などの戦略は評価するが、さらなる応募件数の増や研究層の厚みを増す努力が必要である。

- 知的財産権管理センターの体制強化を行った点は評価できるが、特許保有コストの費用対効果の検証を検討されたい。
- 治験管理室職員を2名増員し、医師主導治験の実績が向上したことについて評価する。

	H24	H25
医師主導治験実施件数	2件	4件
企業治験による収入	60,566千円	66,860千円

(3) 附属病院

【評定】A（順調に進んでいる。）

年度計画の記載39事項すべてが「年度計画を上回って実施している。」又は「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- 附属病院東棟が竣工し、手術室や内視鏡室等が増室され、必要となる医療機器が整備され高度で集学的ながん診療が可能な体制となったことについて評価する。

なお、がん診療体制の大幅な改善に伴い教育・研究・臨床の機能が大きく向上することにより、地域医療へのさらなる貢献が期待される。

- がん診療体制については、診療実績の伸び及び地域連携の進展について評価できる。

＜附属病院本院＞

・3大がん療法の実績

	H24	H25
悪性腫瘍手術件数	2,546件	2,644件
化学療法施行患者延べ人数	9,758人	10,812人
放射線治療患者延べ人数	8,560人	9,058人

- がん治療における口腔ケアの重要性から、県歯科医師会との連携のもと、「がん患者における医科歯科連携県民講座」を開催し、盛況であったことについて評価する。
- 準無菌室等を設置した「小児医療センター」をリニューアルし、小児医療の充実が図られたことについて評価する。＜附属病院本院＞
- 認知症に関する連携協議会、研修会や事例検討会に加え、新たに市民公開講座を開催したことについて評価する。
- 紀北分院において、橋本・伊都地域の医療機関等との連携を深め、「断らない医療」の意識のもと、消防組合との症例検討会の開催、臨床研修医や救急救命士等の研修等の受け入れに取り組み、地域医療を担う人材育成に貢献していることについて評価する。

・病院群輪番制当番日の収容状況

	要請数	収容数	収容率
平成24年1月～12月	153件	152件	99.3%
平成25年1月～12月	139件	139件	100%

	H24	H25
救急車搬送件数	517 件	552 件

- 医学部 1 年生の早期体験実習研修生 30 名が地域医療への理解を深められるよう、開業医との往診同行研修を実施していることについて評価する。〈紀北分院〉
- 医療従事者の BLS (Basic Life Support : 一次救命処置) 講習会の回数、参加者数が増加したことについて評価する。〈附属病院本院〉

	H24	H25
講習会開催数	1 回	11 回
参加者数	25 名	299 名

- 院内感染症対策については、紀北分院での取り組みについては評価できるが、本院ではさらなる取り組みが必要である。
- 附属病院看護部と看護キャリア開発センターが協力し、県内の看護師の実践能力の向上を図るため、他施設の看護師の研修を受け入れていることについて評価する。
今後、看護キャリア開発センターが地域全体と連携を図っていくことが期待される。

(4) 地域貢献

【評定】 A (順調に進んでいる。)

年度計画の記載 7 事項すべてが「年度計画を上回って実施している。」又は「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- 産官学連携推進の取り組みとして、平成 25 年 7 月に住友電気工業株式会社と「包括的連携協定」を締結したことについて評価する。
 今後は、同社技術シーズと大学の臨床ニーズのマッチングによる医療機器の創出と臨床研究中核病院の取得が期待される。
- 県内の小・中学生及び高校生を対象に実施している出前授業の実施数・受講者数ともに前年度より大幅に増加したことについて評価する。
 今後は、その啓発活動が、生活改善や関心の高まりに繋がっているかどうかについての分析とさらなる充実が期待される。

	H24	H25
実施数	17 回	31 回
受講者数	874 名	2,044 名

(5) 国際交流

【評定】 A (順調に進んでいる。)

年度計画の記載 3 事項すべてが、「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- 学生の海外留学派遣が年々増加していることについて評価するが、大学全体としての国際交流はまだ不十分な点もあり、より一層の取組が求められる。

今後は、派遣後の学内へのフィードバックや、外国からの受け入れ、特にアジア地域とは双方向性の国際交流となることが期待される。

・H25派遣状況（7校16名）

ハワイ 大学	ワシントン 大学	チャールズ 大学	ハーバード 大学	山東 大学	カルフォル ニア大学	ウェイク フォレスト大学
2名	1名	2名	2名	6名	2名	1名

※H24：5校8名

2 業務運営の改善及び効率化

(1) 法令及び倫理等の遵守並びに内部統制システムの構築等運営体制の改善

【評定】C（やや遅れている。）

年度計画の記載3事項中2事項が「年度計画を十分に実施している。」と認められるが、1事項について「年度計画を十分には実施していない。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

Q. 外部委員を含む「地域医療機関医師適正配置検討委員会」を設置し、地域医療機関への支援の必要性を審議する仕組みを導入したことについて評価する。

今後は、さらに実効性が上がるような工夫がなされることが期待される。

O. 科学研究費の不正受給については、大きな問題であるが、今回の事案が発覚したのは過去に問題が発生した時に再発防止策として設置した「研究費の不正の通報窓口」に通報されたものであり、当該窓口が機能したことについて評価する。

今後は、通報者にとって不利益が生じないよう保護しながら、通報しやすいシステムを整備していくことが望まれる。

O. 平成24年度に発覚したセクシャルハラスメントを受け、学内の相談体制の充実を図ったことについて評価する。

法人として、その他のハラスメント対策についてもさらなる対応が期待される。

しかし、平成25年度に科学研究費の不正受給が発覚していることから、危機対策室、監事及び監査法人が不正防止や法令遵守に関する情報を交換する「場の設定」や、監査の結果やそれぞれ知り得た情報を互いに共有できるよう、より一層の質の高いコンプライアンス体制の構築が求められる。

O. 内部監査機能の充実と職員研修の徹底が図られ、システム化されてきていることについて評価する。

(2) 人材育成・人事の適正化等

【評定】A（順調に進んでいる。）

年度計画の記載3事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

(3) 事務等の効率化・合理化

【評定】 A (順調に進んでいる。)

年度計画の記載 2 事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

3 財務内容の改善

(1) 自己収入の増加

【評定】 A (順調に進んでいる。)

年度計画の記載 12 事項すべてが「年度計画を上回って実施している。」又は「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- 附属病院本院において、病床利用率は前年度を下回ったものの、平均在院日数は短縮し、診療稼働額が増加したことについて評価する。

	H24	H25
病床利用率	80.8%	79.5%
平均在院日数	15.0 日	14.5 日
診療稼働額	23,074 百万円	23,340 百万円

- 紀北分院において、平均在院日数は変わらなかったものの、病床利用率は前年度を上回っており、診療稼働額が増加したことについて評価する。

	H24	H25
病床利用率	74.1%	75.6%
平均在院日数	15.6 日	15.6 日
診療稼働額	1,323 百万円	1,467 百万円

- 部門別管理会計（診療科別原価計算）やセグメント会計を採用していることについては評価できるが、費用の配賦方法により大きく左右されるので、具体的な配賦方法を注記することが望まれる。

- 大学が保有する研究シーズについて、県内外の企業に広報した結果、企業との共同研究、受託研究が増加したことについて評価する。

	H24	H25
共同研究契約数	22 件	26 件
契約金額	17 百万円	60 百万円

	H24	H25
受託研究契約数	44 件	59 件
契約金額	10 百万円	10 百万円

- 紀北分院における緩和ケア認定看護師による相談件数が大幅に増加（緩和ケア年間相談件数 H24：7 件→H25：37 件）したことについて評価する。

(2) 経費の抑制

【評定】 A (順調に進んでいる。)

年度計画の記載3事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- 医薬材料比率については、DPCの複雑性（平均在院日数が長期化する可能性が高い患者の比重）が高い割には経費削減に努力していることは評価できるが、医薬材料比率が前年度を上回り、収入規模が同水準の他の国公立大学附属病院と比較しても高くなっており、より一層の効率化が求められる。＜附属病院本院＞

	H24	H25
医薬材料比率	33.27%	33.95%

- 後発医薬品の使用率が24.2%（数量ベース）と低いため、高度医療機関ではあるが、後発医薬品に切り替える余地は残されていると考える。＜附属病院本院＞

(3) 資産の運用管理の改善

【評定】 A (順調に進んでいる。)

年度計画の記載1事項が「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

4 自己点検・評価及び情報提供

(1) 評価の充実

【評定】 A (順調に進んでいる。)

年度計画の記載3事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- 附属病院本院では、平成24年度に患者満足度調査及び外来待ち時間調査を実施しているが、毎年1回の調査を行うことが望まれる。
- 紀北分院において、「断らない医療」の意識のもと救急医療を推進していることについては評価できる。
- 一方で、医師不足で診療待ち時間の解消は難しいかもしれないが、患者の不満を減らすよう待ち時間の目安を示す等の工夫が必要である。

(2) 情報公開等の推進

【評定】 A (順調に進んでいる。)

年度計画の記載1事項が「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- 記者発表やホームページの充実等により積極的な広報に取り組んでいるものの、本学の規模等を勘案すれば、記者発表の実績がやや低い状況であるため、より積極的な広報活動が必要である。

5 その他業務運営

(1) 施設及び設備の整備・活用等

【評定】 A (順調に進んでいる。)

年度計画の記載4事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- 平成26年3月に地域医療支援総合センター(仮称)の整備が完了し、附属病院東棟として竣工したことにより、手術室や内視鏡検査・治療室が増室され、必要な医療機器が整備されたことについて評価する。
- 耐用年数の過ぎた医療機器が散見されるが、その有効活用を図るべく機器の導入時には、物理的・機能的耐用年数を考慮した投下資本の回収計算が必要である。

(2) 安全管理

【評定】 A (順調に進んでいる。)

年度計画の記載2事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- 病院の災害訓練に合わせて、全学生に大地震がおこったとの想定に基づき安否確認メールを送信して学生の安否を確認したことを評価する。
今後は、学生に対する危機意識を高め、メール返信率の向上に取り組まれない。

(3) 基本的人権の尊重

【評定】 A (順調に進んでいる。)

年度計画の記載2事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- アカデミックハラスメント、パワーハラスメント、セクシャルハラスメントについて、実態の把握に努める必要がある。

<資料>

○和歌山県公立大学法人評価委員会 委員名簿（敬称略）

氏 名	役 職 等
川 渕 孝 一	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科医療経済学分野教授
坂 本 す が	公益社団法人日本看護協会会長
瀬 戸 嗣 郎	静岡県立こども病院院長
辻 省 次	東京大学大学院医学系研究科脳神経医学専攻神経内科学教授
◎ 中 川 武 正	白浜町国民健康保険直営川添診療所所長
中 西 憲 司	兵庫医科大学学長

（注）◎印は委員長

○業務実績の評価に係る和歌山県公立大学法人評価委員会の開催状況

- ・ 第1回和歌山県公立大学法人評価委員会 平成26年 7月10日開催
- ・ 第2回和歌山県公立大学法人評価委員会 平成26年 8月 7日開催
- ・ 第3回和歌山県公立大学法人評価委員会 平成26年 8月19日～26日
（書面審議による開催）

○大学収容定員等（平成25年4月1日現在）

	収容定員（人）	収容数（人）
医学部	580	585
保健看護学部	324	333
医学研究科	196	146
修士課程	28	26
博士課程	168	120
保健看護学研究科	33	29
博士前期課程	24	26
博士後期課程	9	3
助産学専攻科	10	9

○教職員数（平成25年4月1日現在）

総 数（人）	1, 471
教員	350
事務職員	103
技術職員	4
現業職員	9
医療技術部門職員	184
看護部門職員	812
研究補助職員	9

（出典）平成25年度和歌山県立医科大学概要